

# 空間的対応のある同一検体に対して 病理診断と遺伝子検査の同時施行を可能にした 新しい生検分割治具の開発とその臨床応用

教授・浮村理からのメッセージ

本治具は既に、**AMED医工連携事業の活用により医療機器として上市**し、**りそな産学連携特別賞**も受賞し、さらなる臨床使用拡大を目指し、様々な針生検組織を用いたエビデンス創出中



## キーワード

針生検、Precision Medicine、病理組織検査、遺伝子パネル検査

## 研究の概要

針生検組織を長軸方向に分割することで、病理検査を行った組織と空間的に一致した組織において遺伝子検査を行うことを可能とする、新しい組織分割治具を開発しました。

## 研究内容

京都府立医科大学（泌尿器科）と株ウミヒラは、生検針で採取した組織をその場でただちに縦軸方向に分割できる新しい「生検分割治具」を世界に先駆けて発明し、共同開発しました<sup>(1)(2)</sup>。本発明のデバイスを使用して縦軸方向に分割された組織は、ほぼ同一組織とみなすことができ、同一組織より「病理検査」と「遺伝子検査」に並行して供することが可能となります。

本発明デバイスの最大のメリットは、「**病理組織学的診断情報を担保した新鮮凍結組織を採取することができる**」という点にあります。

本発明デバイスにより分割された組織は、病理組織診断と次世代シーケンサーを用いた遺伝子パネル検査が可能であることをすでに証明しています<sup>(3)</sup>。

## 今後の展望

「病理検査」と「遺伝子検査」の解析結果を相互に裏付けすることで、より正確に病態を把握することができ、近未来のがんゲノム医療におけるPrecision Medicine（高精度医療）の発展に貢献できると考えています。

**(すでに本発明デバイスに興味を持たれ、使用したいとの希望が多数寄せられています)**

(1) 本研究は、日本医療研究開発機構（AMED）・医療機器開発推進研究事業（18he1302021j0001）（浮村理）の研究費の支援を受けて行われました。

(2) 本発明の日本国特許をすでに、株式会社ウミヒラと、共同で取得しています（JP6417495）。

(3) Shiraishi T, Ukimura O. et al., **Sci Rep.** 2020 Oct 13;10(1):17098. **Sci Rep.** 2023 Apr 24;13(1):6610

